

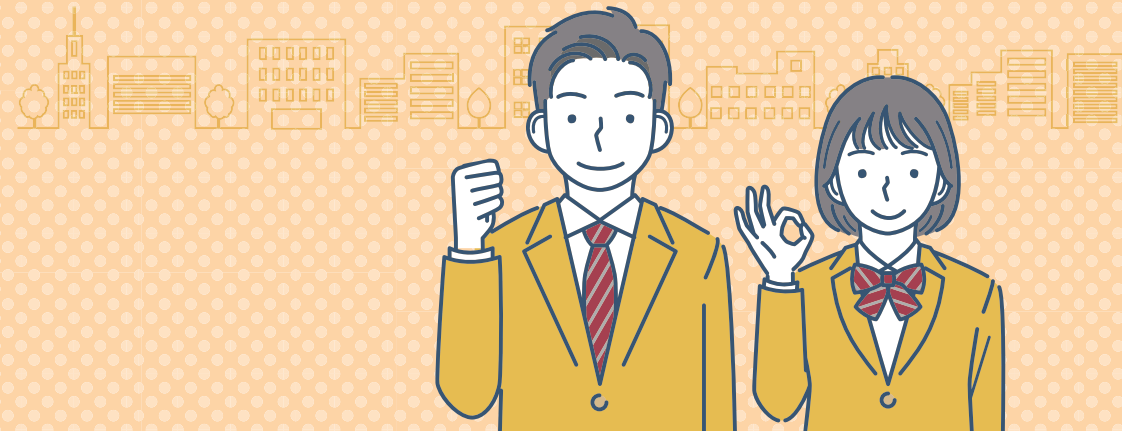
2022 高校生 まちづくり スクール 活動報告

プロジェクト編

ビジネス編

2022 高校生まちづくりスクール 活動報告

2023年3月発行 / 静岡市 市民局 生涯学習推進課(ビジネス編)
子ども未来局 青少年育成課(プロジェクト編)
〒420-8602 静岡市葵区追手町5番1号 TEL 054-221-1207



2022 高校生まちづくりスクール

活動報告

「高校生まちづくりスクール」略して「まちスク」！
若者がまちづくりに参加するきっかけづくりとして、
自分の興味関心をもとに地域課題を考えていく講座です。
プロジェクト編 / ビジネス編 の2つの講座を開講しています。

もくじ

もくじ	1
プロジェクト編	
カリキュラム	2
プロジェクト紹介	3
参加者アンケート	7
講師メッセージ	8
ビジネス編	
カリキュラム	9
ビジネスプラン紹介	10
参加者アンケート	13
講師メッセージ	14



「高校生まちづくりスクール」は、「静岡シチズンカレッジ こ・こ・に」の
プレ過程に位置づけられています。



プロジェクト編 カリキュラム

自分自身の興味関心を探り、大学生年代のサポーターとともに、自らが感じた
地域課題を解決するための企画をグループで考案し、実施します(全6回)。

第1回
7/24 **自分を発見しよう!**
チームビルディング、自分の興味・関心の言語化

第2回
8/7 **まちづくりってなに?**
まちづくりとは何か?を知る、マイチームを決める

第3回
8/21 **マイプロジェクト会議①**
インタビューのふりかえり、マイプロジェクトの企画書作成

第4回
9/11 **中間報告会**
活動の進捗共有、活動計画作成、ゲストからのコメント

第5回
10/2 **マイプロジェクト会議②**
活動の進捗共有、チーム間でのブラッシュアップ

第6回
10/30 **公開プレゼン!**
これまでの活動のふりかえり、ゲストからのコメント



プロジェクト紹介(発表順)

1 静岡市をより安全なまちへ

自宅が山間地にあり、高校で社会基盤の老朽化を学んだことをきっかけに、防災について関心を持ち、「地震が起きても安全なまち」を目指して探究してきました。今回は、インタビューから分かった耐震化の現状を踏まえ、老朽化について住民の方への意識啓発の必要性について提案しました。



3 幼児と高齢者の関わりを増やすゾ!

「介護施設にいる高齢者に楽しく刺激的な日々を送ってもらいたい!」と、幼児との掲示物交換やオンライン交流など、定期的な異世代交流を行うことで、幼児と高齢者が共にお互いを思いやり、共存することができる静岡市を提案しました。



2 身近なLGBTQ + ~性への理解~

「パートナーシップ制度をもっと知ってもらいたい」という目標を持ち、制度の認知度に加え、性的指向の違いから苦しい思いをしている人たちがいることを知っているか、どう思うかについて同世代を対象に調査を行いました。調査結果を基に、多様性が認められるよりよい静岡市のありかたを提案しました。



4 しずおかで自然と触れ合おう

「静岡のアウトドアを盛り上げたい!」を目標に、静岡市のキャンプ地の現状や課題を調べ、自分たち自身でできる解決策を見い出し、提案しました。“キャンプ地といえば静岡市”を目指し、実現するためには何が必要なのかを提案しました。



プロジェクト紹介(発表順)

5 投票するだけで満足しちゃってない? ～投票前にやってほしいこと～

若者の投票率の低さとともに、投票に行く人の中でもしっかりと考えずに投票している人が多いと考え、アンケートを実施し、分析しました。これを基に、同世代に向け選挙に先立ってまずやってほしいこと、考えてほしいことについて提案しました。



7 高齢者と若者との出会いの場所をつくりたい!

若者が高齢者と接点を持たないのはなぜなのかと疑問を持ち、その原因を調査するため、アンケートを実施しました。

また、現在高齢者が利用する交流活動は、どんなものが行われているのか、福祉センターを実際に訪問し、自分たちにできることを探しました。



6 過疎化=関係人口 ～人と人との繋がりを～

過疎化問題において、移住者を増やすことを解決策にするのではなく、関係人口を増やすことが最善策だと考え分析しました。また静岡市の魅力を伝えていくことも過疎化を解消していく重要な点だと考え、公共交通機関であるバスの新たな利用方法を提案しました。



8 オタクが楽しめる街 静岡市にしよう!

"オタ活(オタク活動)"と静岡市について、オタクの目線から考えました。オタ活を楽しむうえで、壁となっている現状と課題、解決案について、静岡市の中でも特に東静岡エリアにフォーカスを当て、オタ活の強みを生かしたまちづくりについて提案しました。

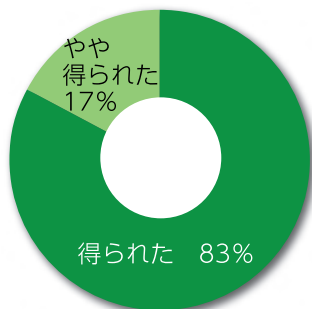




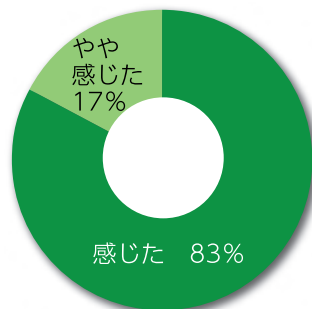
参加者アンケート

プロジェクト編に参加した12名の高校生に聞きました!

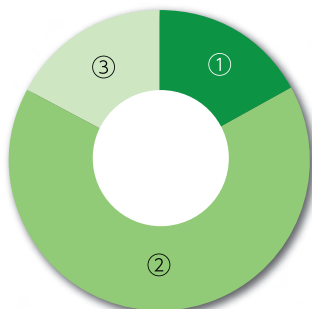
Q1 自分自身の興味や問題意識への新しい気づきを得られましたか?



Q2 同世代との出会い・つながり・交流を感じることができましたか?



Q3 あなたのプロジェクト編への参加と市民活動について



- ①まちスクに参加したことを機に市民活動のようなまちづくり活動に参加した 17%
- ②市民活動には参加していないが、市民活動のようなまちづくりに携わる活動に興味を持った 66%
- ③市民活動には参加していない 17%

Q4 プロジェクト編に参加した感想を教えてください。

社会問題についての情報を集めた際に、実際に現代で起きている問題について深く考え知ることができた。

普段あまり関わることのない他学校の学生や大学生などのサポーターと関わる機会を持つことが出来たので良かった!

サポーターがやさしくコツを教えてください、頼りになった!



講師メッセージ

今年度は例年と比較して、ひとりで取り組む生徒さんが多かったことが印象に残っています。ひとりで活動を行うと、スケールが小さくなってしまいう面もありますが、とことん設定したテーマについて探究できる良さもあります。納得いくまで活動ができたという人もいれば、もうちょっと頑張れたなと悔いが残った人もいると思います。大切なのは、過去の自分を反省するのではなく、良かったことも悪かったこともふりかえり、次に生かすことです。今回の経験をやりっぱなしにするのではなく、自分の中に生まれた学や気づきを言葉にし、それを次のアクションへの糧にしてもらえれば嬉しいです。



土肥 潤也さん
NPO 法人わかものまち

マネジメントやプランニングを学び、市内で活躍する企業人からアドバイスをいただきながら、地域課題を解決するビジネスプランをグループで考案する講座です。最終回は公開プレゼンテーションを行い、ビジネスプランを提案します！

第1回
7/9

プランニングのコツを学ぼう!

講師の飯倉さんから、「コミュニティビジネス」の講義がありました。



第2回
7/23

チームビルディング

前回の宿題「月3万円の利益を上げる! アイデアシート」の個人プレゼンを行いました。投票によって選ばれた上位5プランごとにチームを編成しました。



第3回
8/6

プランを深めよう!

市内で活躍する企業人である3名のゲスト講師やアドバイザーをお招きし、プロの視点からアドバイスや事例紹介をしていただきました。



第4回
8/20

相手に伝わるプレゼンのコツ

最終回に向けて、プレゼン練習を行いました。飯倉さんから企画に必要な要素や構成についてアドバイスをいただきました。



第5回
8/27

公開プレゼン!

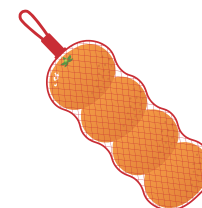
会場及びオンラインで視聴する一般聴講者に向けて、チームで練り上げたビジネスプランを発表しました。約2ヶ月間、お疲れさまでした!



現代の若者に冷凍ミカンを

静岡みかんの消費量を増やすため、皮がなく食べやすい冷凍ミカンをサウナや銭湯、宿泊施設などで販売するビジネスプラン。

気軽にみかんを楽しめる機会を提供することで、みかん好きを増やし、みかん農家の後継ぎ問題の解決も目指します。



静岡県民にお茶のプライドを!

「一世帯に一苗」をスローガンに、静岡県民向けにお茶の栽培キットを販売し、自ら育てた茶葉を飲んでもらうことで、お茶への関心や愛着の醸成を図るビジネスプラン。

茶葉の自給自足を通して、茶葉で飲むお茶の魅力に気付く人を増やし、お茶の消費量増加を狙います。



ビジネスプラン紹介(発表順)

3 高校生向け防災袋

高校生のニーズにあった防災袋を販売し、災害に備える人を増やすビジネスプラン。市内の高校生約520人から集めたアンケート結果をもとに、防災袋の中身や金額を設定することで、リアルな声を反映することができました。

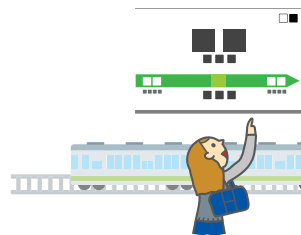
今後は防災袋以外の商品にも高校生の声を企業に届け、ニーズにあった商品開発への貢献を目指します。



5 電車と謎解きの可能性

電車に乗って謎解きをしながら沿線地域のお店や名所を訪れてもらい、静岡市の新たな魅力を広めるビジネスプラン。

ターゲットの若者が謎解きを通じて地元静岡の魅力を知り、謎解きで訪れた場所をSNSで発信してもらうことで、沿線地域の活性化を図ります。



4 みんなでつくる畑プロジェクト

農業の担い手不足により増加している耕作放棄地問題を解消するため、農地を貸したい人と借りたい人を繋げるマッチングサイトを作るビジネスプラン。

高校生がPRを行ったり登録の代行を行うことで、若い世代にも農業に関心を持ってもらい、農業の担い手不足の解消も目指します。



参加者アンケート

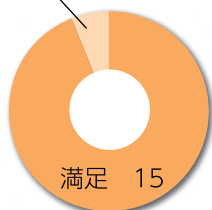
ビジネス編に参加した16名の高校生に聞きました!



学年
1年(3名)・2年(9名)・3年(4名)
出身校(五十音順)
科学技術高校・静岡高校・静岡サレジオ高校・静岡商業高校・静岡城北高校・清水西高校・駿河総合高校・常葉大学附属橘高校

Q1 全5回をとおして、ビジネス編はいかがでしたか

やや満足 1



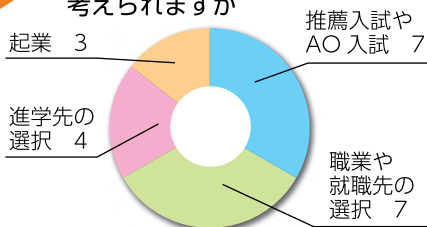
Q2 参加前よりも「起業」や「ビジネス」が身近に感じられるようになりましたか



Q3 今後、地域や社会を良くするために行動していきたいと思いませんか



Q4 まちスクで経験したことは、今後どのように役立つと考えられますか



Q5 今回考えたプランを実現することになった場合、継続して取り組んでいきたいと思いませんか



Q6 まちスクに参加した感想を教えてください。

私たちが住んでいる静岡の問題に対して、当事者意識を持って考えられるようになりました。



人前に立つことにも慣れたり、自分の意見も積極的に言えるようになりました。



プランニングやプレゼンのやり方、資料の作り方を教えていただき将来にも役立つと思いました。この経験を忘れずに活かしていきたいです。



いろいろな方々と関わるおもしろさに気付くことができました。企業の方へインタビューへ行ったり、まちスクで関わった方々とのやりとりが非常に楽しく、苦手だった人との関わりが、克服できたと思います。



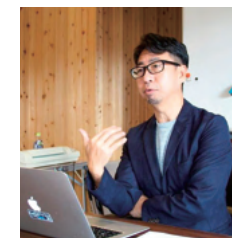
講師メッセージ

「課題解決型」というアクティブラーニングを取り入れた静岡市高校生まちづくりスクール(ビジネス編)。毎年多くの学生が参加し、静岡市の課題についてビジネスを交えた視点から解決策を練り上げてくれます。今年度も5本のアイデアが生まれ、最終回では多くの大人の前で高校生が素晴らしいプレゼンテーションを行ってくれました。

しかし、最終プレゼンにたどり着くまでの道りは本当に大変だったと思います。まず静岡市の課題を見つけ、それをビジネスで解決するという「お題」ですが、そもそもビジネスとは?の段階からのスタートでしたから高校生にはハードルが高かったと思います。

また、5日間のプログラムの中で「企画立案」「ショートプレゼン」「チームづくり」「パワーポイント作成」そして「発表」と普段体験したことのない事ばかり。特に「企画を作る」そして「人前で話す」この2点については良い経験だったのではないのでしょうか。「こうすれば簡単じゃん」と頭で思いついても、1つ1つ掘り下げていくと「現実的ではない」ことが数多く見付き、ゲスト講師やアドバイザーからの質問や助言から何度も企画を再定義しなくてはならない場面があったと思います。そして、自分たちで作った企画を人前で話すことによって「企画の見える化」が進みますが、人前で話す事の「難しさ」と人に伝える「難しさ」を実感できたのではないのでしょうか。

5日間のまちスクで体験したことが、きっと皆さんの今後の生活に役に立つ日が来ると思います。ぜひこの経験を活かしてこれからも頑張ってください。



飯倉 清太さん
NPO 法人サプライズ代表理事